

令和 6 年度ワーキンググループの意見について

◆ワーキンググループについて

- ・ 3つのワーキンググループに分かれ、各グループ 4～5名の構成
- ・ 1回目 5月27日、2回目 6月4日に開催

◆ワーキンググループの意見

1) おもてなし推進について

おもてなし推進の点では、夜に営業している店が少ない、お寿司屋さんに外国人が入れない、などの課題があるので、屋台村などのような店舗が集合し夜の営業もある程度義務付けている地区の拡大や英語が話せる寿司職人を育成する機能を市の中でもつなどし、新しいお店をつくれば競争が起きておもてなしのレベルも上がるのではないかな。

2) 民間事業者と連携した観光分野のデジタル化推進について

量より質の観光を求める中でインバウンドに焦点を当て、地域通貨の利用やトラベルテックを展開する企業と連携するなど、観光分野のデジタル化を推進してはどうか。民間、外部の力を入れて事業を進めるのも大事ではないか。ガバナンスの確保という点では、現在、行っている観光施策が機能しているか評価する仕組みも必要ではないか。

3) 利用者意見を反映した観光マップの利便性向上について

観光マップについて、マップにアンケート用の QR コードをつけて、利用者から改善点などの意見を集約・反映することにより、内容もブラッシュアップして、より使い勝手の良いものにできるのではないかな。

4) 外国語・多言語対応について

外国人の観光客にもっと特化して PR してはどうか。飲食店であれば、メニュー表示や英語でコミュニケーションが取るなど。まち全体で取り組めるよう、セミナーの開催や観光案内所も引き続き継続するのも良いのではないかな。

5) 宿泊施設の現状について

小樽には宿泊施設が少ないから日帰り観光になっているのではないかなと思われる。大手の宿泊事業者に市内への誘致をしているのか。

6) 宿泊施設・飲食店等の連携支援について

ホテルの朝食ランキングを見ると、上位には小樽のホテルが入っていないので、市内の飲食店とタイアップした朝食メニューを出すホテルを対象とした補助制度を実施するのはどうか。

7) 日本遺産ストーリー、映画ドラマロケ地の活用について

日本遺産について、認められた場合のストーリー展開が必要。映画やドラマの誘致ができれば観光客も増えるのではないかな。

8) 小樽の写真家を活用した SNS 等による誘客促進

小樽には写真家も多くいるので、小樽の魅力ある写真を提供してもらい、SNS などを通じて観光客を呼び込む方法もあるのではないかな。

令和6年度 中小企業振興会議委員からの意見について

◆中小企業振興会議について

8月23日にワーキンググループの意見や今年度のテーマなどに関し、各委員に意見照会を実施

◆中小企業振興会議委員の意見

1 域内調達率に関する議論

観光業の経済波及効果は①観光客数×②観光消費単価×③域内調達率で算出されることから、②観光消費単価について滞在時間を増やし消費促進を図ることに加えて、食材や物品の仕入れ等に関して③域内調達率を高める方策を検討することも有効ではないか。

2 波及効果の幅広い共有

観光業が市内の多くの事業所への波及効果があることを市民に幅広く認識していただき、市民の主体的な参加を促す取り組みも並行して実施すべきではないか。観光の波及効果を受けていることを市民に知ってもらう取り組みが求められる。長期的には、そのことが地域の新たな魅力発見につながるのではないか。

3 広域連携の取り組み

観光戦略においても、観光消費を域内で循環させながら、域内で消費や投資を高め、付加価値を創出していく観点が重要。地元の食材による食や、地元産の土産の提供など「当地ならではの消費」によって、観光客の満足度を高めることが、循環力の強化につながるものとする。隣接自治体を含め小樽市を中心に、より広域の観光エリアとして魅力を高め、エリアとしての滞在時間を確保することで、小樽市内の宿泊者増加や消費増加につなげることもできるのではないか。

4 市内の回遊性向上

市内に歴史的建造物を巡るスマホ版スタンプラリーを設定し、スタンプ数に応じた懸賞設定をすることで、観光客の回遊性を高め、滞在時間を長くにとって小樽の魅力を十分に感じてもらえるのではないか。

5 小樽市の空き家をリフォームした上でウィークリー民家やマンスリー民家として中長期滞在者に貸し出してはどうか。中長期に滞在いただければその分消費活動するため、経済的効果も期待できる。

6 小樽の観光資源として夜景はまだ十分活用されていないのではないか。街並みや運河、港湾の見える高台などが既に数か所あるが、それらをさらに整備してレストランや宿泊もできる施設（リゾートホテル）を誘致してはどうか。

7 小樽市に宿泊する観光客を増やす取り組みとして、小樽を後志地区の観光ベース基地として宿泊してもらうために、周辺の観光地域との連携を強化してはどうか。後志地区の観光地をアピールした上で、小樽に滞在することで小樽市はもちろん周辺観光にも出かけられることを強調する。周辺の観光地を巡る際に何か特典があるとなお良い。アクセスが重要になるため、バスなどの交通手段の整備は必要。

- 8 観光マップは紙ベースから、デジタルへの移行を強化すべきではないか。市内の歴史的建造物の近くに行くと様々な情報、歴史秘話などをスマホで見たり聞いたりすることができ、散策のモデルコースも紹介してもらえる、さらに小樽散策バスや一日乗車券利用者のバス利用とも連携する、専用のアプリを開発してはどうか。
- 9 防波堤の内側を夜間ライトアップし、港湾内を夜間周遊しながら食事ができる船を出してライトアップされた防波堤や海上からの小樽の夜景を見てもらってはどうか。
- 10 観光客のリピーターを増やすために呼び込みも重要だがアフターフォローがさらに重要ではないか。教育旅行で言えば、来ていただいた学校に市からお礼の手紙とともに新素材の提案（日本遺産等）を添えて感謝の意を伝える方法もある。
- 11 域内消費を高める取り組みの中で、消費者が購入するモノやサービスがどれだけ地元産であるかも重要な要素のため、実態を把握するために調査をしてはどうか。
- 12 観光から定住
高所得者向けに別荘地として土地を提供してはどうか。基本100坪以上～500坪未満の大型の別荘地で、価格は1億円～10億円ぐらいの設定で、場所は天狗山、緑展望台、祝津あたりの展望の良い場所を整地し、またプール、テニスコートなどのオプションをつけ、世界の高所得者向けに販売すれば固定資産税の獲得及びゾーン化することで新たな消費箇所が生まれる。
- 13 既存の施設から市内各地への拡大
現在しっかり利用されていないコンテンツとして市内の神社、仏閣などのスポットを線で結んで楽しめる観光はどうか。正月や例大祭時期しか訪れない場所に通年訪れる仕掛けをすることで、土産物店、また小樽独特のグッズを提供して、高齢者でも働ける環境を作れるかもしれない。
- 14 小樽独特の観光土産をガラスのみならず広げる工夫
世界規模でのアニメ文化は興隆期だが、小樽を舞台にした新作のアニメは近頃なく、サブカルチャーも小春六花がわずかに目立つぐらいのため、この分野を少し掘り下げる余地はあるのではないか。小樽なら蒲鉾などでカップリングも期待できるかもしれない。